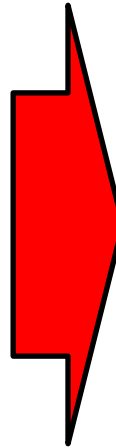


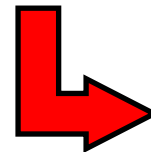
資料4

議事(2)人口の将来展望の考え方について

村上市人口ビジョン	<b>人口ビジョン策定の目的</b>
	○地方における <u>人口減少の現状</u> を分析する ○ <u>人口の長期的(2060年)な展望</u> を行い、総合戦略を策定するうえでの基礎資料とする
	<b>人口推計の状況(第1回審議会資料)から明らかとなった課題</b>
	(1) 若い人の市外流出が続いている  (2) 出生数が減少しており、高齢化により死亡数は伸びている  (3)人口構造が高齢化しており、生産年齢人口が減少している。一部の地域では、早い段階から日常生活への影響が懸念される。



- ①住みたいと思う若い人を増やす
- ②Uターン者や定住者を増やす
- ③子どもを育てやすい環境を整え、子どもを増やす
- ④人口の減少に備えた地域づくりを進める



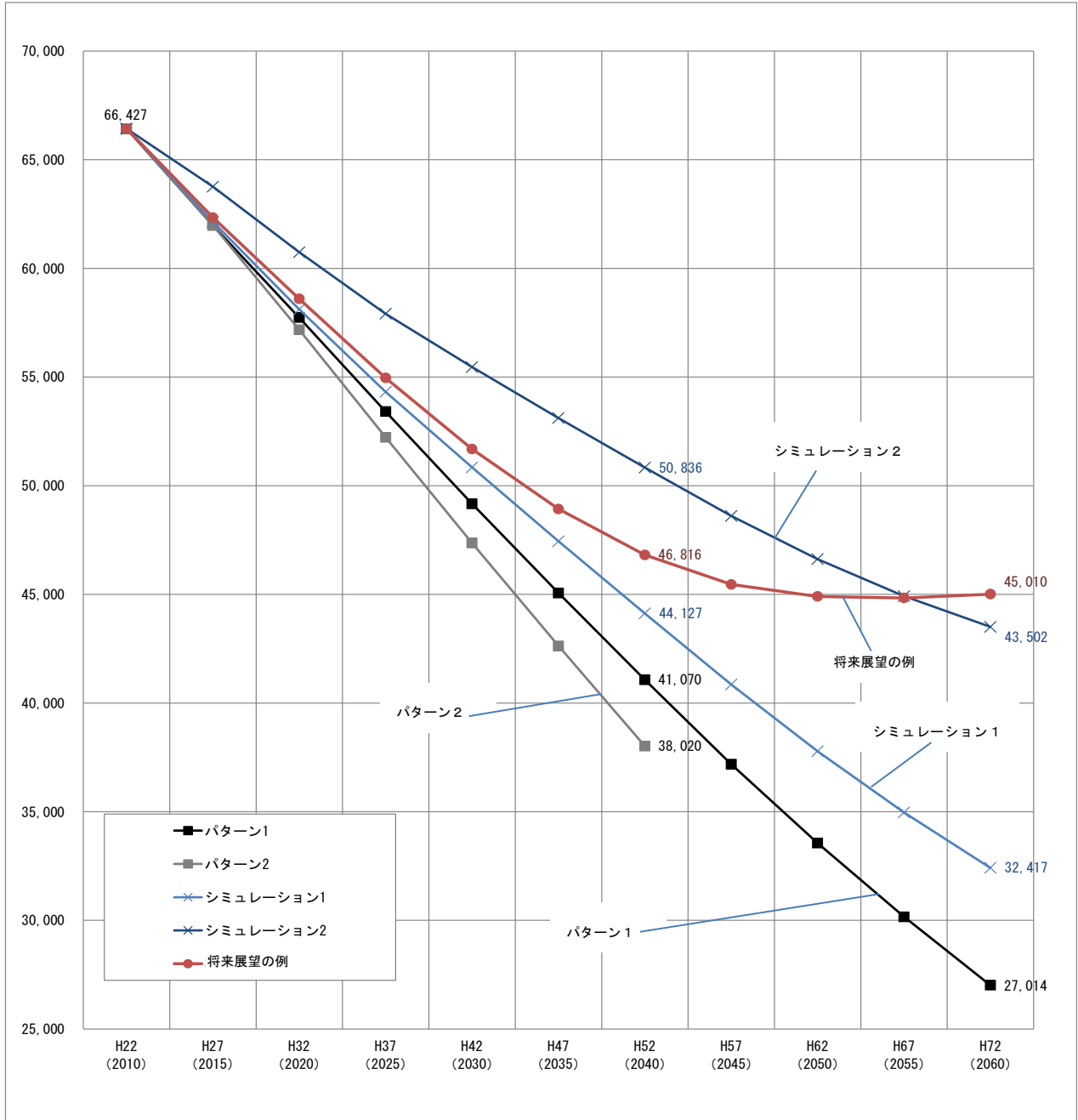
総合戦略  
**政策理念**

国・他市の将来人口の比較

年	2010	2060	
		社人研	長期(人口)ビジョン
国	1億2,806万人	8,674万人	1億194万人
村上市	66,427人	27,014人	
栃木県那須塩原市	117,812人	89,104人	102,957人
静岡県牧之原市	49,019人	27,590人	32,470人
京都府京丹後市	59,038人	26,000人	75,000人

年	2010	2040	
		社人研	長期(人口)ビジョン
長野県塩尻市	67,670人	55,655人	60,000人
島根県雲南市	41,915人	27,670人	34,890人
新潟県三条市	102,292人	75,546人	80368人

# 人口の将来展望



	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
<b>パターン1</b>	66,427	61,977	57,734	53,409	49,163	45,060	41,070	37,183	33,550	30,163	27,014
<b>パターン2</b>	66,427	61,977	57,176	52,222	47,360	42,627	38,020	-	-	-	-
<b>シミュレーション1</b>	66,427	62,143	58,111	54,316	50,843	47,439	44,127	40,852	37,778	34,963	32,417
<b>シミュレーション2</b>	66,427	63,758	60,746	57,909	55,456	53,112	50,836	48,607	46,622	44,914	43,502
<b>将来展望の例</b>	66,427	62,337	58,596	54,957	51,684	48,926	46,816	45,456	44,905	44,836	45,010

パターン	推計方法
パターン 1 (国立社会保障人口問題研究所)	全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計
パターン 2 (日本創生会議)	全国の総移動数が H22~27 年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計
シミュレーション 1	パターン 1 (社人研数値) をベースに、合計特殊出生率が人口置換水準 (人口を長期的に一定に保てる水準の 2.1) まで上昇したとした場合のシミュレーション
シミュレーション 2	合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした場合のシミュレーション
将来展望の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 合計特殊出生率を 2040 年までに 2.1 とし、2050 年までに 2.15 に到達して安定すると仮定</li> <li>② 2016 年から 2040 年までの 25 年間で年平均約 109 人の減少 (流出・死亡) を抑え、以降 2041 年から 2060 年までの 20 年間で年平均約 472 人の減少を抑えると仮定</li> <li>③ 減少を抑制した人数のうち、ほぼ半数を 25 歳~49 歳の年齢の者とした</li> </ul>